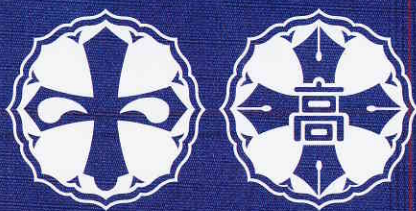


Ambition

志 心

これから、ここから。



静岡県立浜松西高等学校同窓会
2014年 新春の集い

Ambition

志

これから、ここから。

いくつになっても志を持って生きる、未来志向。社会に対し、世界に対し、発信、活躍する西高OB。その根っこは、ここ浜松西高で培った文武両道の精神や友。

浜松西高同窓会2014年「新春の集い」は、今も高校時代の志を貫いている人、新たな志を持ち頑張っている人に焦点をあて、皆様の原点を再認識する機会を作りたい。そんな思いを込めて幹事学年一同準備を進めて参りました。

それぞれの「志」を、より強く、より高く。懐かしい友との再会、新しい出会いの場となり、皆様の未来に向かう、さらなるエネルギーを得られる場となれば幸いです。

式次第

2014年1月2日(木)
会場：グラランドホテル浜松 鳳の間

15:00 14:00

受付開始

開会宣言

校歌斉唱

開会の辞

来賓紹介

来賓代表祝辞

受勲者表彰

還暦者ご紹介

還暦代表挨拶

鏡開き(高24回卒)

祝宴
古希・喜寿のお祝い

新春サンバshow with 家康くん

新春大抽選会

17:30

代表幹事挨拶

次年度幹事挨拶

同窓会旗授与

応援歌斉唱

閉会の辞

記念撮影

【司会】 上田 記子 (うえだ のりこ)

※都合により内容・進行順が変更になる場合があります。

Contents

01 式次第

02 校歌・応援歌・目次

03 ご挨拶

静岡県立浜松西高等学校

同窓会会長 稲垣 訓宏

静岡県立浜松西高等学校

後援会会長 伊藤 孝

静岡県立浜松西高等学校

校長 木村 功

2014年新春の集い代表幹事

高46回卒 藤田 薫

05 志インタビュー

06 大川七彩(高等部2年)

07 栗田祥弘(高46回卒)

09 鈴木徳子(高37回卒)

11 瀧口義浩(高28回卒)

13 青春ころごし座談会

17 高46回卒の専門家たち

20 サンフランシスコ講和条約時の作文

21 祝還暦

24 高46回卒 STAFF

25 協賛企業索引

広告

校歌

作詞 内野徳治
作曲 県善三郎

一、
銀くもりなき大洋や

とうてんかがよ
東天耀ふ芙蓉峰

てんよ あまね
天与普き西山に

そむい
聳ゆる麓巖しく

こもる力の偉なるかな

二、
真澄める空に讃歌の

はまうた
声朗らかに打ち揚げて

清き尊き若き日の

誇りゆたけく睦みゆく

心の光遠きかな

応援歌

一、
くろがねの男の子の腕

ふる
揮うべき時は来たりぬ

虹に似た我等が意気を

示すべき時は来たりぬ

ハイザー西高 ハイザー西高

フレー オー オー

二、
いでやいで打ちてつくして

いただ
戴かん勝利の冠

いでやいで追い斥けて

握らんか覇権の剣

ハイザー西高 ハイザー西高

フレー オー オー



静岡県立浜松西高等学校
同窓会会長

稲垣 訓宏

新年明けましておめでとございます。
ご来賓の皆様、同窓生の皆様、大勢の皆様をお迎えして、「新春の集い」を今年も盛大に開催できることを心より感謝申し上げます。
創立90周年を迎えようとする長い歴史を持つ我が西高、西山台で青春時代を過ごし、志をもって羽ばたいていった同窓諸氏との再会、年を取っても青春のロマンが湧いてきます。本年の「新春の集い」のテーマは、「志」です。「新春の集い」での旧友との再会、新たな出会いを機に当時の志を思い出し、いくつになっても志を持って生きるこの大切さを語り合おう」とサブタイトルがついています。今年還暦を迎えられる方々、さらには、古希の70歳の方から80歳までの大先輩、成人式を迎えたばかりの初々しい同窓生、幹事年の現役バリバリの方々と世代を超えてこの「新春の集い」に集まっていたいただきました。青春時代を西山台で過ごし、羽ばたいていかれた先輩諸氏のお話に垣間見られる共通のものがあると思えば、それが我が西高の「伝統」というものになるのでしょうか。どんなお話に発展するか大変楽しみです。

2020年の五輪が東京で開催されることになり、その決め手となった

新年明けましておめでとございます。

「新春の集い」が今年も盛大に開催され、同窓生の皆様が一堂に会し、交流と絆を深められることを心からお慶び申し上げます。

昨年は、アベノミクスによる経済効果や2020年東京オリンピック開催決定など、明るい話題も多く報道されました。一方で、震災被害については、まだまだ解決されたとは言えず、引き続き復興への取り組みに我々も尽力せねばならないと感じております。同窓生の皆様におかれましては、今日まで持ち続けられておられる「志」の貫徹、あるいは心機一転「新たな志」を胸に、それぞれの分野でますます活躍いただき、在校生の良き指標となつていただけますようお願い申し上げます。

また今後も引き続き、浜松西高後援会へのご指導、ご声援をくださいますよう、よろしく願っています。

最後に、この西山台に根付く良き伝統が末永く引き継がれていくことを心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

のが日本の「おもてなし」の心といわれています。日本の優しさ、相手を思いやる気配り、東日本大震災での痛手を「絆」の力で乗り越えようとする底力など私たち日本人の授かっている美徳を「おもてなし」という言葉で改めて気づかされました。

我が新春の集いのテーマ「志」もまた西山台で育んだ「おもてなし」の心を礎にしています。未来へ向かって志を抱く時、私たちはただ自分の欲得を追うのではなく、漠然としていても必ず心の中に何かしら社会のため、人のため、の気持が混じっていました。これが「おもてなし」の心と今気づきます。その「志」が高いほど、挫折も乗り越えられて今日を迎えていることでしょうか。久しぶりに会う懐かしい友と語り合うことで再び高い「志」と英知を養っていただけたら、こんな嬉しいことはありません。「新春の集い」を開催するに当たって、1年の長きにわたって一生懸命準備をしてくださった高46回生の幹事皆様と、ご指導及びご協力くださった評議員をはじめ多くの皆様に心から感謝申し上げますとともに、会員みなさまの益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。



静岡県立浜松西高等学校
後援会会長

伊藤 孝





2014年新春の集い代表幹事
高46回卒

藤田 薫

新年明けましておめでとございます。
本年も毎年恒例の浜松西高校同窓会「新春の集い」が多くの諸先輩ご協力や協賛いただきました各企業の皆様のご支援により開催でき、高46回卒一同を代表し心より厚く御礼申し上げます。
ちようど原稿を作成している今、台風26号が伊豆大島を直撃し甚大な被害をもたらしました。地震だけでなく天災のおそろしさを実感し、危機管理の重要性が問われると同時に、現地で懸命に救助してくださる消防隊員、自衛隊さらにボランティアの方々を見て、局面を打開するには多くの方々による協力、絆の強さ、前向きな姿勢等が大事であると改めて感じました。
今回の新春の集いのテーマ「志」これから、ここから」は、皆様在校時当時持っていた志、そしてこれからの志を思い描き、第2、第3の青春時代を歩んでいただきたいと思いました。この記念誌にもありますように1951年のサンフランシスコ講和条約締結当時の在校生（高4回卒）の先輩が講和条約について書いた作文が見つかり、当時描いていた「志」を今になって改めて思い返し、懐かしく感じられたかと思

います。
本年の新春の集いは、毎年恒例の大抽選会のみではなく、全員参加の催し「サンバ」等皆様楽しめる会を企画し、旧友や恩師との再会や世代を超えた交流や出会いの場にしていきたいと思えます。記念品として西高オリジナルタオルの販売をいたします。タオルの色は、「黒」と西高のイメージカラーである「緑」の2種類作成しました。ご自身でのご使用、記念品、野球の応援等様々な場面でお使いいただけます。
本年の新春の集いを運営するにあたり、仕事もありながら夜遅くまで手伝ってくれた高46回の皆さん本当にありがとうございます。高校卒業して20年、このような機会があったからこそ、高校の時一度も話したことがなかった同級生とも話すことができ一緒に楽しいお酒も飲みました。このような機会をいただいたことに改めて感謝いたしますとともに今後我々高46回卒の一人ひとりが歩むべき人生において、大きな糧になりました。
最後に、母校浜松西高の永遠なる発展、同窓生の皆様のご多幸を祈念いたし、御挨拶とさせていただきます。



静岡県立浜松西高等学校
校長

木村 功

新年あけましておめでとございます。
地元浜松市をはじめ全国各地で活躍されている同級生の皆様が集い、交流を深められます「新春の集い」が、今年もこのように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。同級生の皆様には、日ごろより本校の教育活動に對しまして深いご理解と多大なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、おかげさまで、本校は来年度創立90周年の節目を迎えます。今回は校内行事として記念講演会を行うものの、改まった式典等は実施を見合わせる予定です。ささやかでも生徒一人ひとりが90年目の西高生として、自分自身に宿る「西山魂」を確認できるような催しにしたいと考えております。
昨年8月に全国高P連山口大会にPTA役員お二人と共に参加した際、この「西山魂」ということばの特別な重みを改めて感じる機会がありました。ご承知のとおり、山口は江戸時代末期から明治時代初期にかけて、日本の新しい時代の扉を開くご力を尽くした多くの「維新の志士」を輩出した土地。約150年の歳月を経た今でも、当時の志士たちの強い決意・熱い心意気がいろいろな場面で脈々と受け継がれているように感じられました。明治維新の精神的・理論的指導者の一人と言われる吉田松陰を生んだ萩市にある市立明倫小学校

では、児童全員が毎朝「松陰先生の教え」を朗唱する活動が行われています。例えば、入学してすぐに取り組む「今日よりぞ 幼心を 打ち捨てて 人と成りにし 道を踏めかし」ということばは、小学校1年生にはやや難しすぎるようにも思えますが、毎日、声に出して言うことで、「一人の人間として自立して生きていくことの大切さ」が徐々に心にしみ込んでいくのだそうです。
吉田松陰とその教えが「山口のゲニウス・ロキ（その土地に宿る気風・精神性、土地柄）」だとすれば、創立以来、本校の教育理念の核として代々引き継がれ、生徒たちにも親しまれてきた、校訓「知（高い知性）・仁（豊かな心）・勇（たくましい力）」から生まれる「西山魂」もまた、「西山台のゲニウス・ロキ」と言えるでしょう。学校生活の様々な場面で、それぞれの「知・仁・勇」を限りなく高め、「西山魂」を心の隅々までしみ込ませていくことが、本校生徒を、生涯にわたって社会への貢献を果たそうとする志の高い有為な人材に成長させてくれるものと信じています。
本年が、新たな10年間に向けて本校が確かな成長を果たす1年となることを願うとともに、浜松西高等学校同窓会のみならず、本校の発展を心よりお祈り申し上げます。



IMPOSSIBLE

志

Interview インタ
ビュー

未来を見据える目一杯の情熱と
飽くなき挑戦をするパワーが詰まった
リアルなエピソード。



大川 七彩

Okawa Nami

高等部2年
1996年(平成8年)生まれ
2009年 浜松西高中等部入学

私は今年の夏、「平成25年度モンゴル国(ドルノゴビ県)高校生相互交流事業」に静岡県内の高校から350人が2回の選考によって選ばれ、その一員として参加してきました。2年前に川勝知事とモンゴル国の南東に位置するドルノゴビ県知事が友好協定を結びきっかけとなったのが、互いに「高校生を交流させたい」という考えを持っていたことでした。2年後の今年、やっと実現したこの初めての事業に参加することが叶い、未知なるモンゴルという土地で多くの異文化体験や多くの人々との出会いを通じて、自分が将来海外に出て海外と日本を繋ぐ仕事に就きたい、ということを変更して感じることができました。

実際、初めて実施する事業ということでハプニングもありましたが、伝統的な移動式住居のゲルでの生活体験や、現地の学生との交流をするなど充実した5泊6日間になりました。私は言葉が通じることが不安に思っていました。英語を話すことができない子どもたちが、ジェスチャーを使って気持ちを伝えてくれ、モンゴル語が何も話せない私に必死にモンゴル語を教えてください、人とは言葉が通じなくても交流することができると実感しました。そして、私がメディアから聞いたりして想像していたモンゴル国と、実際行ってみると見たモンゴル国とは、遙かに異なり、やはり、自分の足でその土地を訪れることが重要なのだと感じました。

私がモンゴル事業に参加しようとした理由は将来の夢を実現する一歩にしたかったからです。そもそも海外に

興味を持ち始めたのは中等部2年の頃から韓国語を習い始めたのがきっかけでした。そして去年の夏には韓国の大学に3週間、個人的に語学留学として1人で韓国に渡り生活しました。また、インドの高校生のホームステイを受け入れるなど、これまで多くの海外の人たちと出会うことができ、自分の視野を広げさせてくれました。その人達とは今でもFace Bookなどで交流を続けています。

これからは英語と韓国語の語学力を向上させるだけではなく、理系の大学に進学しても、他の言語を勉強して留学などに挑戦していきたいです。そして、夢を実現するために西高で学習していることも一生懸命取り組み、吹奏楽部との文武両立をがんばってきたいです。また、3月には全日本リコーダーコンテスト全国大会に4回目の出場を果たし、今年も初挑戦となるソ口部門での出場が叶いました。特技を伸ばすためにこれからも様々なことに挑戦し、将来、必ず海外で活躍する人材に成長していきたいです。





栗田 祥弘

Kurita Yoshihiro

高46回卒
1976年1月(昭和51年)生まれ
2001年 南カリフォルニア建築大学大学院修士課程 修了
2001-2004年 DRFTWD office, Amsterdam (オランダ)勤務
2004-2013年 隈研吾建築都市設計事務所 勤務
2013年 栗田祥弘建築都市研究所 設立
東京都市大学工学部建築学科 非常勤講師



「30歳までは視野をできるだけ広げてみよう、できるだけ悩もうと思った」

高46回卒の建築家、栗田祥弘に世界へ飛び出した勇気を尋ねるとそう答えた。

栗田は、建築家チームnext stations（3人の共同主宰）で実施した『土佐くろしお鉄道中村駅（四万十市）のリノベーション』で2012土木学会デザイン賞の最優秀賞を受賞した気鋭の建築家だ。

通常、何億、何十億の工事が選ばれる土木の世界の同賞を、建築家の手がけた総工費3000万円の事業が受けるのはかなりの異例。デザインを通じて社会にどう関われるのか、建築と社会をつなぐ仕事をしたという栗田の強い想いが地方都市のローカル線駅舎で実り、そこを高く評価された結果といえる。

「最初はトイレの改修をしてほしいという依頼だったんですよ（笑）」

それが、誰もが心地よい、新たな視点での地方都市ならではの公共空間に駅舎が昇華されたのは、建築がまちを変えていける、という思いだった。ローカル線の駅舎を通して、その土地の未来を地元の人達に考えてもらいたかったと語る。

「なにもしなければ、このまちはなくなってしまうかもしれない。危機感をもって考えてほしかった。未来にはいくつものシナリオがある。選ぶのは自分たちだということを若い世代に考えてほしい」

武蔵工業大学の建築学科を卒業後、千葉大学大学院、米国南カリフォルニア建築大学大学院MR+D（メトロポ

リタンリサーチ+デザインコース）と学んだ。

おもしろいのはその後の就職活動だ。なんと、単身、オランダで就職活動を行った。これまでの研究や設計成果などをまとめた「ポートフォリオ」を持つての奮闘だった。不安はなかったのかを尋ねると「へんな自信はあったかな。飛び込んで内容を聞いてもらえば、絶対評価してもらえると思っていた。もちろん実際はそんな簡単にはいかなかったけれど」

オランダでの就職活動は本當にきつかったと、今は笑って話す栗田だが、無事に実力を認められて現代アーティストとアーキテクトのパートナーシップで運営する設計事務所で働くことになる。そこでの仕事を通じて「アートと社会のつながり」ひいては「建築と社会とのつながり」について深く考えるようになった。そのうえで、やっぱり自分の柱は建築、日本で建築をやるうと思っただけという。もともと、帰国した直接のきっかけを詳しく聞いてみると奥様の「もう待てない」という言葉だったようだ。

「人間と都市は似ていると思う。道路や鉄道といったインフラは血管、建物は細胞といったように集まって全体を形作っている。建築家は自分のつくりたいものをつくるのではなく、社会とつながっていくべきもの。建築家も時代が変わっていかなくてはいけない。帰国して働いた隈研吾建築都市設計事務所（※新しい歌舞伎座などの設計で世界的に著名な設計事務所）では『負ける建築』を学んだ。一度負けてみる。

コミュニケーションをとって、乗り越えたところでもっと強くなるものがあるはず」

2013年の春から独立し、栗田祥弘建築都市研究所を主宰する。

想いがある施主との建築は楽しいと話す。想いを実現する方法はいくらでもある。それをじっくり相手と向き合っ

てコミュニケーションをとりながら見つけ出すのが、栗田のやり方だ。今は東北の復興支援として福島県いわき市久之浜地区でのまちづくりサポーター活動も行う。

西高在学時代は、弓道部の練習に明け暮れる毎日を経験した。子ども時代は石などの鉱物や生き物に興味があったという。自然の造詣や生き物を何時間も見飽きずに眺めている子どもだった。生命への関心が栗田の原点なのかもしれない。

最後に浜松での活躍の予定は？と聞くと「今はほかのまちばかりだけど、ぜひいつか浜松のまちづくりに関わりたい」と答えてくれた。広い世界で研鑽を積んだ、志ある同窓生が浜松のまちの新しいシナリオを見つめる日は、実はそこまできているのかもしれない。



鈴木 徳子

Suzuki Noriko

高37回卒
1966年8月(昭和41年)生まれ
1989年 株式会社リクルート人材センター
(現:株式会社リクルートキャリア)入社
2010年 退職 個人事業主として独立開業
現在、株式会社ライフワークスと研修講師契約
(女性キャリア研修)株式会社リクルートキャリアコンサル
ティングとキャリアカウンセリング契約他



「女性が働くのは当たり前の時代」にこやかな笑顔の中に、これまで築いてきた確かなキャリアがにじむ鈴木徳子は、歯切れよく言う。

確かに少子高齢化、定年延長、社会保障改革、と我々を取り巻く社会環境は刻々と変化し、女性は結婚したら退職、という時代ではなくなっている。

「働く女性がいきいきと、自分らしく生きることを支援したい。ライフイベントも大切にしながら、主体的に働いてほしい、働き続けてほしいと思う。その経験は、必ずその後の人生にプラスになるから」

第2次安倍内閣が、日本のこれらを変えていく重要な政策と位置付けているのが、女性の活躍推進だ。女性自身はもちろん男性も、そして受け入れる社会も改めて根底から考えていかななくてはならない時代を迎えている。それは制度だけでなく、個々人の考え方や働き方についても同様だ。

鈴木は、いくつもの顔をもつ。まず、研修講師・キャリアカウンセラーとしてリクルートグループでの経験をもとにフリーとして活躍する。つぎに、中学校2年生の男の子の母でもある。そして、なんと幼稚園の子どものたちのチームでサッカーコーチも務める。

笑って話す鈴木だが、当然、楽な道ではなかった。4年前までは、新卒で入社したリクルートグループに在籍。ハードワークで有名な会社だ。自身も夫も地方出身者だったから親のサポートは無い。保育園、学童保育、ベビーシッター、ファミリーサポートを駆使して乗り切った。深夜に帰宅、次の日の家族

の夕食をつくるためにキッチンに立ちジャガイモの皮をむく、明け方の掃除は掃でそおとと掃く、その後仮眠して職場に出動なんてハードスケジュールもこなしてきた。でも、大変なときも全力で働き続けてきたからこそ、力が蓄えられ、信頼できる、協力してくれる仲間に出会え、今のキャリアに繋がった。そして今、「毎日が本当に楽しい」と心から思うし、それを後輩の女性たちに伝えていきたいと鈴木は言う。

近年、政府や企業の女性活躍推進への取組みは進んでおり、様々な制度が整い始めている。でも考えてほしい。これから女性が社会で活躍し、いきいきと働き続けるためには、整えられた制度に頼って権利を主張するだけではだめなのでは？ということだ。実際、大手企業の中には育休制度、時短制度などで手厚い制度を整えたあまり、時短勤務社員が過半数を超え、業務が回らない……という事態に陥ったケースもあるそうだ。時代は「女性に長く働いてほしい」から「長く働いて貢献してほしい、活躍してほしい」というフェーズに移っているのだ。

そして最近の労働事情について、キャリアカウンセラーとして感じていることを尋ねてみた。

「これは男女関係なく言えることです。自分のキャリアや人生を、会社任せや人任せにしないことです。少子高齢化の中で、2020年には人口の4人に1人が45〜54歳という時代に入ります。定年は延長され、労働マーケットには高齢者があふれます。そして役職・ポジションを持たないミドル層、

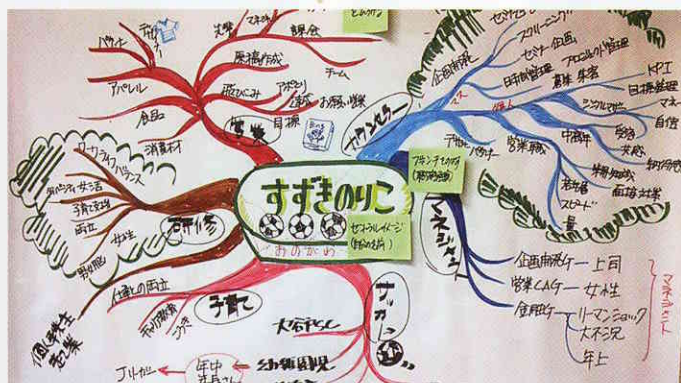
シニア層が増大します。自分の強み・専門性は何なのか？社会や会社は何を求めているのか？自分は何をしたいのか？どう生きたいのか？これらを常に自問自答し、自律的・主体的なキャリアを作りたいと思います。それができたらきつと60歳になっても70歳になっても、男性でも女性でもいきいきとした人生が送れるんじゃないかと思ってます。」

これから社会に旅立つ後輩にもアドバイスをもらえないかと尋ねた。

「自分に向いている仕事は何か？と聞く方が多いんです。でも、自分にあった仕事はなんだろう、自分の適性ってなんだろうと自分探して悩むよりも、まずは目の前にある仕事を一所懸命がむしやらにやってみることで得られるものがあることを知ってほしい。20代30代は、筏下り(ラフティング)に例えられることが多いんです。激流を水をかぶりながら必死に漕ぐ、時には川に落ちたりする。どの支流に流れつくかわからないし、前も良く見えないかもしれない。でもその経験はきつと皆さんの血となり筋肉になる。そしてその蓄えた力で、仕事を楽しんで欲しい。無理にアップ(上に登ろうと)すると持ちこたえられない人が多くなってきている。そんなときは自分をストレッチしてくださいと言ってます。」

きつとこれまでも鈴木言葉に支えられた人も多かったのではと感じた。最後に、これからの夢について聞いてみた。

実は中学の頃、女子サッカーチームに入るために清水まで電車で通おうか真



剣に悩んだというほどのサッカー好き。「Jリーグなどのプロアシートのセカンドキャリア支援をしたい」と語る。「あとは、教え子からJリーガーがでたらいいな！」とさすがのコーチぶりも覗かせた。

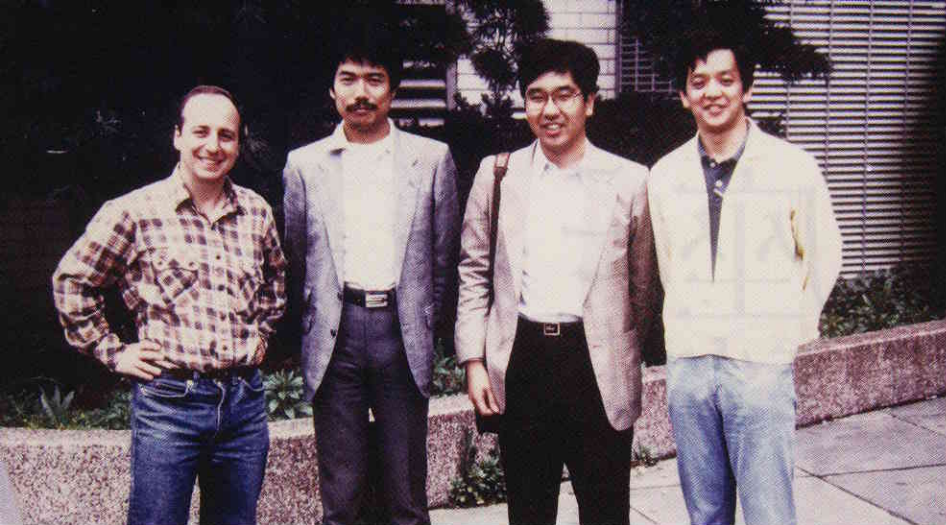


Takiguchi
Yoshihiro

高28回卒
1958年1月(昭和33年)生まれ
浜松ホトニクス株式会社 中央研究所
株式会社 TAK システムイニシアティブ 代表取締役
光産業創成大学院大学 教授 工学博士

瀧口
義浩





瀧口義浩

「楽しい仕事をやりたい。まだ誰もや
れていないことを」

瀧口は楽しそうに、かつ、明確に言い
切る。高28回卒の瀧口義浩は、平成25
年度のノーベル賞を支えたメーカーと
して再度の脚光を浴びる浜松ホトニク
スの技術者であり光産業創成大学院大
学の教授も務める。

光産業とはどのようなものなのか、
門外漢でも理解できるのか不安に思い
ながら恐る恐る聞いてみた。

「エンジニア、つまりは、ものづくり屋
なんです。うちの仕事はお客さまが
使いやすいように光をだすこと。ラン
プもつくるし、そのための装置もつくる。
化粧品メーカーさんから、農業・漁業
医療機器、宇宙産業、なんでもお客さ
まのご希望にあわせた光を提供する」
瀧口は、自らの仕事について実に魅力
的に話す。つつい、もっと続きが聞
きたくなる。

瀧口は30代のころ、ニューヨークで
の開発拠点の立ち上げを任せられその後
省庁へ出向し国家プロジェクトを技術
的な面で支えるなどホトニクスの中で
もユニークなキャリアを持つ。

理系研究者は専門家過ぎて、コミュニ
ケーションが苦手なのではというス
テレオタイプなイメージは全くない。
それどころか、瀧口の話聞いてい
ると、たくさんの可能性が、目の前に広
がって見えた。

「たとえば、必要な時期に必要な光をあ
てれば、土壌汚染が深刻な土地で管理
された安全な稲の収穫が年5回できる

ようになる。食料危機の決め手となる
かもしれない」

農業の次は、人工衛星の話だ。瀧口
のフィルタを通してSFの世界が
急に現実味を帯びる。でも、画期的な
技術は悪用される危険性も常にはら
んでいる。それは、怖くはないかと訊ねた。
「技術は悪くない。使う方が問題なんだ」

技術は正しく使われていくと信じ
たと強く思った。父の被爆体験から、
小学生のころから原子力につよい関心
があったと話す。西高時代は工学部で
機械工作に興じた。

子どもたちには本物にふれさせたい
との思いから、日本宇宙少年団浜松支
部の事務局もこなす。

「この世にないものを生み出すのは大変
で苦しい。でもそれが楽しいし技術者
としての喜びだ」

日本の技術の未来は瀧口のような志
のある技術者に支えられている。



青春

こころざし 座談会

気持ちの良い秋晴れのある日、西高校舎では遠暦年、幹事年、現役生の三世代による「青春こころざし座談会」が開催されました。時代の変遷とともに、西高生の価値観も変化？校則の話題から恋愛の話まで。オフレコ話も飛び出して楽しい時間となりました。



高須 紳輔

高 46 回卒
新春の集い幹事副代表
生物部

内山 浩

高 46 回卒
新春の集い幹事副代表
硬式テニス部

龍口 良信

高 24 回卒
遠暦学年幹事代表
サッカー部

大西 扶有美

高 46 回卒
新春の集い幹事副代表
演劇部

金子 ひかり

高等部 2 年
弦楽部部長

鈴木 杏奈

高等部 2 年
弦楽部副部長

廣田 佳南

高等部 2 年
弦楽部

伊藤 多恵子

高 24 回卒
遠暦学年幹事 新聞部
ミス西高

村松 高行

高 24 回卒 遠暦学年幹事
野球部 ピッチャー
西高初の県大会決勝進出

西高へのあこがれ

内山 どうして皆さん西高を選んだのでしょうか？

伊藤 私は西部中に通ってたんだけど、先輩のセーラー服姿にあこがれて西高を受験したのよ。

大西 私もです。セーラー服かわいいですよ。今も同じでしょ？

金子 そつですね。

龍口 女子の冬服はそそれなかつたな。

伊藤 そつね。北高と同じ感じだったわね。ジャンパー・スカートにブレザーで。

高須 僕は詰め襟の銀ボタンにあこがれていました。銀ボタンは他になかつたですよ。

龍口 僕らの頃は制帽もあつて、かぶっていたよな。

伊藤 制帽に詰め襟の学ランで、男子は他校の女子からもてたわよね。

廣田 今はセーラー服以外は変わっていますよ。冬は男女ともにシャツとブレザーです。

伊・大 えっ！詰め襟じゃないの？残念だわ(笑)

校風について

内山 校風はどんな感じでしたか？



龍口 あまり校風らしいものはないかな。

伊藤 わりとのんびりしていたわよね。

村松 ちゃんとしたのがなかったのが校風(笑)

内山 退学者が多かったという噂は本当ですか？バンカラな人が多かった？

村松 その逆で、やわらかかったんだよ(笑)

龍口 バンカラとかじゃなくって、退学の理由のほとんどが男女交際だったから。当時は、女子校の生徒とつきあうと女子がまず退学させられて。そしたらこっちも退学せざるを得ないだろ。

伊藤 手をつないでいるだけでも見つかると怒られたわよ。喫茶店とかも入るだけでドキドキしたもよ。

内山 そういえば厳しい先生いましたよね。

龍口 そうだったね。服装チェックは当たり前。靴のかかとを踏んでいて殴られたなあ。体罰は普通だった。今じゃ考えられないかもしれないけど。

村松 そうだよな。
大西 私も派手な靴下を履いていて怒られました。

伊藤 そうかしら、女子には優しかったと思うけど。

龍口 君は特別だったと思うよ。なんせ、ミ入西高だしね。

一同 それは絶対、特別ですね(笑)

勉強について

内山 勉強はどうでしたか？

伊藤 のんびりしてたわよ。北高に追いつけ追い越せっていう感じじゃなかったわ。

内山 えー！僕らの頃は「つめこみ」って感じてしたよ。北高に追いつけて感じて。理数科や男子クラスの選抜クラスもあったし、都市伝説的な逆選抜クラスなんてもありましたね。今もあるの？

鈴木 逆選抜ですか？ないですよ(笑) 選抜クラスはありますけど。男子だけじゃなくて男女混合です。

大西 補習とかはあるの？

廣田 毎月2回土曜日の午前中にサタデークラブというのがあります。選抜は全員十他のクラスは希望者が参加しています。



内山 僕らの頃はそこまでではなかったな。

龍口 良い大学に行くことだけがいいというものではないよな。勉強も大事だけど、人格・品性が大事だよ。まずは勉強も友人関係も楽しむことからだね。

村松 勉強も仕事もやらされるんじゃないなくて、好きだと思えなきゃ好きでやる・やりたくてやるというのが後々良い経験になると思うよ。

高校時代の ハンカチエピソード

内山 高校時代の夢というか、ころざしを教えてください。

龍口 将来は、海外で暮らしたいと思っていたんだよね。それで、防衛大学の願書を取り寄せたんだけど、視力で引つかかって……。

日大1年の時、先輩から国費留学があるぞって教えてもらったんだよ。英語が話せたわけではないんだけど、面接で自分のころざしを熱く語ったら、結果は合格。でも、そのすぐ後に父親が亡くなって、結局留学はしなかった。

それでも、世界を相手にした仕事をしたかったという夢が捨てきれず、父が縫製関係の仕事をしていただけあって、なじみの深いファッション



業界(HANAEMORR)へ入ったんだよね。ほぼ毎日、世界中から来るバイヤーを相手に仕事をしてた。父の仕事を手伝うところからよく見ていたおかげかな、こうして全部つながってるんだよね。

高須 自分は、龍口さんのような立派なころざしは無かったですね(笑)今、思うと、とにかく大都会「東京」に憧れてたんです。東京の大学へ行つて、それもキャンパスが郊外にある大学じゃなくて、山手線の中がいいって。アパートも、渋谷区っていうだけで決めちゃって。築20年でぼろぼろに古かったけど、都会に住んでるってことで、全然気にならなかったですね。それで、究極のミーハーが、「ジュリアアナ東京」テレビで見ている、絶対に行きたいと思ってたんですけど、行く前につぶれちゃったんですよね。残念(笑)

大西 私も一緒。大学の最寄駅が渋谷だったというので進学決めちゃった口です(笑)現役のみんなはもっといういろいろ考えているよね?

鈴木 私は栄養に興味があるんです。栄養のバランスというよりは、栄養の成分そのものに興味があるんですね。それで、将来は、生物とか化学の関係を勉強して、栄養と結び付けて、人の役に立ちたいと思っています。

金子 私は、鈴木さんのように具体的なことはないんですけど……。本や漫画を読むことが好きなので、出版関係で発信する側になればと思います。

廣田 父が旅行が好きで小さい頃からいろいろ連れていってもらってきました。それで、国際関係に興味があります。将来の職業とかは、まだはつきりとは決めてませんが、2020年の東京オリンピックの時に、選手だけでなく観客も世界中から来ると思うので、いろいろな人と交流してみたいです。

龍口 オリピックの時には、絶対にボランティアを募集するから、それを狙うといいと思うよ。

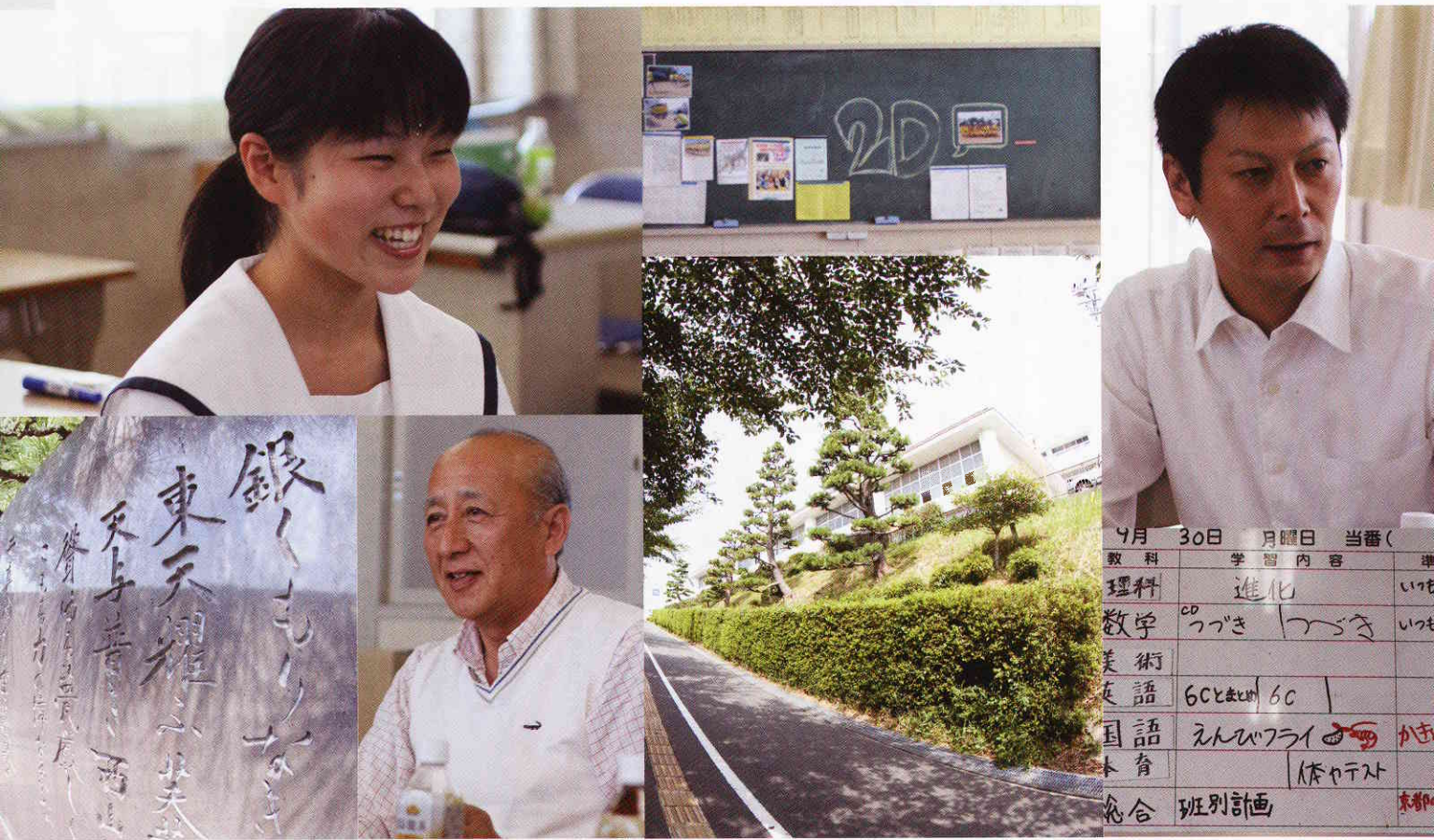
伊藤 そうね。私たちが小学五年生の時だったわよね。オリピックを2回も見られるなんてラッキーよね。リニア中央新幹線の開通は見られないかもだけど(笑)

大西 そんなことおっしゃらずに(笑)

内山 最後に現役の皆さんから先輩に聞きたいことはある？

鈴木 西高生で良かったことはありますか？

村松 そうだなあ。卒業してから気づいたんだけど、自分の子どもが受験の時に、自然と西高を勧めてた



んだよな。やっぱり西高が好きなのかな。

伊藤 私は新聞部だったんだけど、この前、3学年上までの部活の先輩方と泊りがけで集まったのよ。今でも交流があるっていうのが良いことよね。

龍口 いい出会いに恵まれた。それに尽きる。最後にどうしても言っておきたかったことがあるんだけど、いいかな？君たちにはぜひ、3つの言葉を覚えておいてもらいたい。1つは「ありがとう」。もう1つは「ごめんなさい」。最後に「お願いします」。相手を信頼し感謝することが大切。この3つが言えれば、どこへいっても信頼されるし、きっとこれからの人生に役に立つから。

現役生 はい。

伊藤 立派なこと言うじゃない(笑)

内山 最後に締めていただきまして(笑) 本日はありがとうございました。

同じ西高に通い、同じ景色を見てきた私たち同窓生ですが、時代とともにそれぞれの青春を謳歌してきたようです。でも、根底に流れるのは西山魂。これからも、志高く西高の伝統を引き継いでいきましょう！

Professional



40

回卒の専門家たち



【テキスタイルデザイナー】

本尾 延子
Motoo Nobuko

京都芸術デザイン専門学校 非常勤講師
表紙テキスタイルは本尾氏の作品

<表紙テキスタイルデザインによせて>

温故知新、ということが着物のデザインでもよく取りざたされる。守、破、離も近い表現である。伝統的な物であるがゆえの、「古さ」を、どのようにして現代に即したモノに表すのか……。その「古さ」を「新しさ」に昇華させることが、着物をデザインする上で最も難しいことであり、醍醐味でもある。これは、戦前に流行した「滝織お召し」という江戸時代からの伝統的な織物をスクリーンプリントでアレンジした着物の一部である。

〽きものに魅せられて、30年余。キモノと言っても着るのではなく、作ること。

初めて染めたのは、5歳の大晦日。年越しの支度で大忙しな大人たちの横で、黒豆の煮汁をもらって染めた。くすんだ深い紫色。祖母の着物の端切れで、立涌模様の美しい縷子地であった。

染まるということの不思議さと、絹の光沢にやられてしまった。その後、祖母の為に、拙い針でお香袋を仕立てた。それから、ずーっと何かしら染色とともに生きていて、我ながらよく飽きないなあ……と思う。振り返ると、デザインが好きだとかオシャレが好きで着物の世界に入ったのではなく、ただただ貧乏人が極上の美しい物に触れるには作り手になるしかないな、と思い立つたわけがこの世界に入った。

と、いうわけだから高校生の頃など、なんともあか抜けてなくて美大を目指す学生には全く見えない、いわゆるイケてない娘であった。しかしながら、本人は高校入試のときにすでに美大に入る気満々で、入試面接の美術教師に「美大に進学したいです!」と喋っていたように思う。入学してから卒業後も件の粟野先生には大変お世話になり、今年の春にはクリエイティブ浜松で開催された「水曜会展」で一緒に作品を展示させていただいた。長いご縁である。

その後、就職してツモリチサトさんや岩下志麻さんのアシスタントをするようになって、毎週のように京都と東京を新幹線で往復している時期があった。染の見本や図案を持って新幹線に乗ると、打ち合わせがうまく行かなくて落ち込んだり、胃が痛くなったりした。が、浜松に通るばかり、西山台の上で校舎が朝日に照らされているのを見ると、懐かしくって力がわいた気がする。西山寮での弦楽部の合宿や、新しい図書館での天体観測会など、楽し

い思い出がキラキラと思い出されたからだろうか。

2人目の娘を出産して私の仕事人生に転換期がおとずれた。長い間勤めた会社をやめて、デザインの一線から離れざるをえなくなったのだ。人生の師匠であるツモリさんや岩下さんのように、育児と家庭と仕事をバランスよく、未永くハッピーに暮らしていくのが目標である。しかし目標はるか彼方に、だった。自分のデザインした着物をまとった俳優やモデルさんたちを、テレビや雑誌で見かけては、生まれたばかりの赤ちゃんを抱きながら泣いて暮らしていたときもあった。一線からはなれても、メディアでは一足遅れて放映され、出版される。育児の間に遅れてしまい、もうデザインの現場に戻れないのでは?という不安が、それを見るたびに頭をよぎったのだ。

子どもたちも少し大きくなった今、自分のペースで仕事を始められるようになった。黒豆で目覚めた染色だが、今は近所の京野菜を使って作品を染めている。そして、私が尊敬する師匠たちから教わったノウハウや、センスをこれからの若者に伝える仕事もある。Macでテキスタイルデザインを、という切り口で教壇に立つ。一般的な広告デザイン向けの授業ではない。ファッション業界のクリエイター向けの授業構成で、草木染め実技からグラフィックまで幅広く教えている。

美しい日本の文化である着物と染色の魅力を広げて、産業を守る。デザインの世界が豊かに、人間が幸せに包まれることを祈って、今日も美しいモノのことはかり考えて生きている。



【貿易商社】

内山 浩

Uchiyama Hiroshi

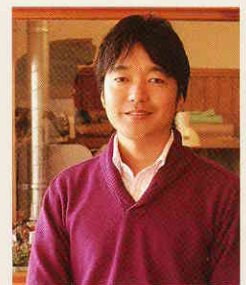
株式会社白木屋 代表取締役

繊維の街、浜松と言われるものの、長い間、斜陽産業とも言われ、恐る恐る繊維業を営む家業を継ぐために戻ってきてはや6年。結論から言えば、遣り甲斐があつて安定感のある仕事が家業で幸運でした。

繊維の世界は分野が多岐にわたり、私が生業としている領域は病院、ホテルなどの宿泊施設で使うタオルや寝具類を製造輸入することです。そしてそれら商品の9割以上は中国を中心とした海外製品に支えられています。

私も例外ではなく、中国やベトナムへの出張も多いのですが、仕事を通じて貴重な人脈形成が出来るのもこの仕事の醍醐味だと思います。例えば、中国の元大臣（現在は元老として更に力があるらしい・・・）の息子さんとはご縁があり家族ぐるみのお付き合いもありいろいろな話を聞くことができました。いわく、共産党高官は法務大臣に届け出れば賄賂は受け取っても良いこと（その代償として政治的裏切りができない）。アメリカにはいじめられているという感覚が共産党にはあるということ（本当はアメリカよりも日本と仲良くしたいと思っているのか・・・）。

ここでは書けないこともありますので、これくらいにしておきますが、様々な交流を通じ友情を深めていくことが仕事につながっていきます。死ぬまで働きたいタチですので、繊維の世界でこれからも楽しんでいこうと思えます。



【足と靴の専門家】

寺田 純也

Terada Junya

SKIP 代表

私の主な仕事は、足と靴、そして歩くことに悩みや不安を抱えている方々のために、歩くことが楽しくなるような靴やオーダーインソール（中敷き）をご提案することです。これまでに、外反母趾、ウオノメ、巻き爪、膝痛、股関節痛、リウマチ、脳性麻痺などでお悩みの方々をはじめ、Jリーガーやプロゴルファーなどスポーツアスリートの靴やオーダーインソールを5000足以上作製してきました。また、靴選びや歩き方などに関する講演やセミナーなども不定期に開催しています。

高校時代、私はサッカー部に所属していましたが、素晴らしい仲間たちと共に、3年間の厳しい練習に耐えることができたことが、今の自分の土台となっています。「浜松を足元から元気にしたい」という想いを胸に、そして、浜松西高出身であることを誇りにして、これからもこの仕事に取り組んでいきたいと思えます。



【行政書士】

藤田 薫

Fujita Kaoru

行政書士ふじた国際法務事務所 代表

「行政書士」ってという言葉ご存知ですか？

テレビドラマ「カバチタレ」で知名度が上がりましたが、一般的には「役所に提出する許認可の書類作成の代書屋」といったイメージが強いかと思えます。

行政書士の業務は幅広く建設業、風俗営業、農地転用等の許可申請に始まり、相続手続きや後見業務、さらにはクーリングオフしたい場合の内容証明作成という、皆さんにとっての一番身近な専門家なんですよ。

私は、生まれ育った浜松市西区馬郡町で行政書士を開業し、みなさまのおかげで7年がたち、私と補助者2名の3名体制で皆様の困りごとのお手伝いをさせていただいています。

様々な業務の中でも、特に神経を使うのは風俗営業許可の申請です。書類を警察に提出してから許可が出るまで約2カ月かかります。その間も家賃がかかり、オープン時期を予め決めるお客様も多く、手違いで許可がおりる日が延びれば、大損害になります。書類を提出する前、法律違反がないか確認し、警察と話合い、スムーズに許可が得るよう細心の注意を払っています。

仕事を終えお客様に言っていただけ「ありがとう」という言葉が何よりの報酬です。

今後もお客様とWIN WINの関係でみなさまに愛される事務所を経営していきたいです。



【日本語教育コーディネーター】

内山 夕輝

Uchiyama Yuki

(公財) 浜松国際交流協会

Jリーグに夢中になり、将来はブラジル人選手の通訳になりたいと東京外国語大学ポルトガル語学科を志願。しかし、センター試験の数学で失敗し、ベトナム語学科に進路変更。振り返るとそれはミステリー小説に張り巡らされた伏線のように、全て今の私につながっているのだと感慨深いです。

私は今、(公財) 浜松国際交流協会で主に日本語教育を中心とした外国人支援に携わっています。地域で暮らすための生活言語は日本語であるという認識のもと、日本語教室の運営や、日本語教育環境を整備する仕事です。

ご存知の通り、浜松市は日本一ブラジル人が多く住む都市です。また、あまり知られていませんがベトナム人も多く、1000人以上が暮らしています(市区町村別全国7番目)。現在は、ベトナム人コミュニティに入り、日本語教室の立ち上げと一緒に企画しています。

大学時代はまさか今の仕事に就くとは思っていませんでしたが、学んだ語学や文化、何より妙に外国人慣れしているところは、この仕事に活かしているのではと、最近ようやく思えるようになりました。これからも、全ての出会いを大切に、いろんな人・こと・ものをつないでいくお手伝いをしていきたいです。



【教師】

落合 優

Ochiai Masaru

浜松西高 中等部 教員

2011年4月。卒業してから18年目に、今度は教師として浜松西高等学校中等部にお世話になることになりました。18年ぶりに足を踏み入れた西山台は「基本的には当時と同じ」しかし、よく見ると細かいところが当時と少しずつ違いました。

普通教室にエアコンが設置されていたり、野球部の活動場所に「錬成館」という建物が建設されていたり、当時と微妙に違う所を発見しました。一番違うのは、同じ校舎の中に中等部が設置されたために「校舎の中に中学生がいること」「男女の人数比率が約1対1になっていること」「学ランからブレザーに変化していたこと」です。学生服の「銀ボタン」が見られなくなったのが寂しいですが、これも時代の流れなのかもしれません。

しかし、同窓会館で縁あって「新春の集いの準備」や「同窓会報作成」で出会った同級生は素晴らしい人ばかり。高校生の時は一度も話したことがない人がほとんどですがみんな優しい。当時もつと多くの同級生に話しかければ良かったと反省です。多分これはどんなに時間が経過しても変わらないものでしょう。「同じ学舎で学んだ友達」ということで、今から積極的に声を掛けていきたいです。



【牧師】

鈴木 洋宣

Suzuki Hironobu

守谷聖書教会

18歳。高校3年生。20年を経た今、人生の転機の時であったと改めて覚えています。クラスや弓道部で良き友に恵まれましたが、勉強の挫折や友人関係の難しさに直面しました。そのような中で、誰から勧められるわけでもなく、両親が信じ、自分も幼い時には触れ、しかし思春期と共に反発していた聖書の世界に触れていくようになりました。聖書のメッセージが入っていたカセットテープを倉庫のように聞き始めました。高校3年生で洗礼を受け、その後、牧師の道へと導かれました。

20年前、自分の魂を癒し慰めてくれた聖書の言葉は、結婚し子どもが与えられた今、より一層自分を整え支えています。高校生の時、本当に勉強ができませんでした。授業についていけない、「微分・積分・確率」全然分からない。そんな自分を置いていくように見えた教師を憎らしいと思うことさえありました。でも、今は、何一つそれが無駄ではなかったと感じています。素晴らしい高校生活を送ることができた西高に感謝です。



サンフランシスコ講和条約 講和記念文集確認の経緯

60年前のタイムカプセル

今村 昭八
寿山 隆久

私達4回卒は戦後の学制改革で6年間で西山台で過ごし昭和27年に卒業した仲間です。

この度の「講和記念文集」の確認の経緯ですが、平成24年秋、私達は卒業60周年記念の母校訪問の同窓会を開き55人が集まりました。事前打ち合わせで幹事が学校に訪れた際「講和条約調印の時に作文を書いた記憶がある」との話題がでました。図書館担当の太田先生が書棚から3学年3冊の分厚い正本を出してくれたのが出発点です。

この作文集は条約調印直後の1951年に在校生全員が日本の岐路への思いを書いたもので、それが立派に製本されて60年間保存されていたのです。驚きの一言。奇跡のタイムカプセルでした。その後、有志で相談のうえ、

①国の「主権回復の旧式典」に合わせレプリカを作成し学校に贈る②各人の原稿コピーを郵送・配布する③同期の大半が傘寿となることから昨年6月に記念の会を開く、ことにしました。

傘寿会当日は学校から原本を借用展示しました。原稿用紙に万年筆の青インクで書かれた自身の筆跡を見て感慨に浸る一時を過ごしました。

改めて、どのような経緯で作文が発案され残されたものか、全員の謎でした。その答えは西高新聞1951年9月25日号にあつたのです。記事を読むと「講和に際し西高生に与つ」という見出しで当時の校長伊藤新七郎先生は、講和調印に際し9月10日、全校生徒の前に「道義を楨として一致団結を踏み越え、世界の文化繁栄に寄与しなければならない」と訓示を与えたとあります。講和作文の原点はここにあり、教育目標に国際的な視点を入れていたことがわかります。

すばらしい我が母校西高を誇りに思うとともに、作文を製本し60年間大切に保存してくださった諸先生に心から感謝いたします。昨年の同窓会報(平成25年8月1日)で現校長木村功先生から「数年ぶりに、西高の原点を確認された同級生がいました・・・」と評価もいただきました。

中高一貫教育が始まり母校は6年間教育に挑戦を続けています。社会に貢献する有為な諸君が育つように母校にエールを贈ります。

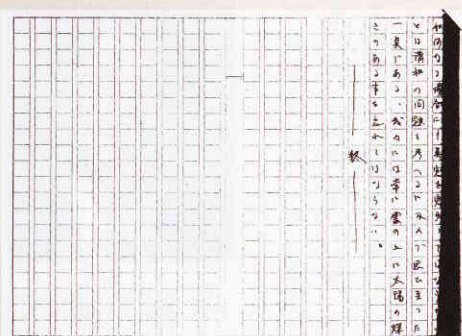
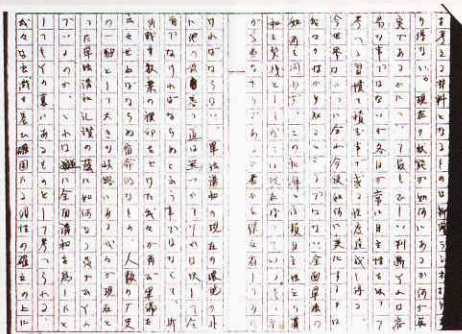


今村氏作文

高4回卒

今村 昭八

Imamura
shouhachi





祝 還 暦

高24回卒の皆様、還暦おめでとうございます。

この度はご還暦を迎えられ誠におめでとうございます。

これからの益々のご活躍とご健勝を浜松西高同窓会一同、心よりお祈り申し上げます。

31

HR



野中 一夫

私はずっと「カッコいい男」になることを夢見ていた。「カッコいい」という定義は、その時により様々であり今でも定まっていない。今年で60歳になった。3人目の孫が7月に生まれ一般的に言われるおじいちゃんとなっていました。自分はおじいちゃんだという自覚がほとんど無く、今年の夏は異常な暑さであったこともあり、普段はTシャツと短パンという出立ちで、その辺をウロウロしている。このごろ、友人知人とバッタリ会うと必ずと言って良い程「太ったな」と言われ、心の中で「うるせえ」と言いつつ曖昧に笑って誤摩化している自分を情け無く思っている。

53歳の誕生日のその日、私は突然の脳内出血により救急車により搬送され約一ヶ月の入院生活を余儀なくされた。今思い返しても大変な事ではあるが、命拾いをした。初めての大病であり、家族は元より、周りの方々に多大な迷惑を掛けてしまった。私は今も「カッコいい男」になることを夢見ている。

32

HR



飯室 秀昭

今年の西高同窓会のテーマは「志」これから、「ここから」とのこと。西高を巣立って42年になるうとしていたが、当時、何かそのような高尚な事を考えていたかどうか、全く自信がない。何となく過ごし、今に至ったような気がして誠に恥ずかしい限りである。

職業柄、卒業式などでは子どもたちに「夢をもって羽ばたけ」などと語ってはいるのに自分は何と情けないありさまのことか。

暦が一回りしたことでもあるし、自分をもう一度、リセットするチャンスかも知れない。

では何が出来るのだろうか。

以前、中国の広州日本人学校へ勤務していた頃から始めた太極拳。退職したら、もう一度、中国へ渡り練習できたらと思っている。近頃の日中関係を思うに、恩返しではないが少しは日中間の緊張緩和の役にたつことは出来ないだろうかと考えてみた。すると、「太極拳を通して日中平和への貢献」などという、大それた「志」の言葉が、浮かんで来たが、果たしてどうなるのだろうか。

33

HR



平野 清次

入学して間もないころ、昼休みに弁当を食べていたら突然3年生が、「平野はいるか」と言いながら教室に入ってきた。その瞬間、教室全体が凍りつきました。恐る恐る「平野は僕ですけど」と言っていると、「お前か。もし学校で上級生から何か言われたら、『野球部のキャプテンの中野の知り合いだ』って言えばなんとかなるから」と言われました。中野さんは、姉の親友の弟さんで、私を気遣ってわざわざ来てくれたのです。うれしかった反面、これはそんな後ろ盾がないとやっていけない怖い学校なのか？と不安になりました。

しかし、それはまったくの杞憂で、緊張したのは屋上で校歌を歌った時ぐらいで、本当に楽しい3年間を過ごすことができました。特に3年生の時は、甲子園の夢を見せてもらったり、我がクラスが合唱大会で優勝したりと、良き仲間恵まれ思い出深い1年でした。

そうそう、私には一つ自慢があります。それは、娘も3年生の時に合唱大会で優勝し、親子二代で優勝という金字塔？を打ち立てたことです。こうなったら3歳の孫の15年後に期待してみようかな。それまではしゃんとしていきたいな。



忠内 清

△人生の扉▽

古希を過ぎた友人と、彼を慕う仲間たちとともにしばしば食事をする。気心が知れた者同士、他愛もない話題で毎回大盛り上がりである。夜半過ぎ、カラオケルームでの二次会のお開きには必ずこの歌をみんなで歌う。

『人生の扉』 作詩作曲 竹内まりや
歌詞に特別な思いを抱くのはこの曲が初めてである。これも還暦を迎えたからなのか。

△満開の桜や色づく山の紅葉をこの先いつたい何度見ることになるだろう。一つ一つ人生の扉を開けては感じるその重さ。ひとりひとり愛する人たちのために生きてゆきたいよ▽

その友人の生き様とオーバーラップする。人生の後半戦、私も彼のように、毎日を丁寧生きて行こう。慎ましく、上滑りすることなく私の時間を歩んでいこうと思う。

そして、鬼籍に入る前には是非とも本物の大人になりたいものである。



大西 真理子

△西山台の思い出▽

にし高の校章はベンが四本。「北高の校章よりベンが一本多い。大いに勉学に励もう」と、校長先生が話されたのを覚えている。

しんブル落成式で、故古橋廣之進氏が披露してくださった力強い泳ぎは印象深い。

やりたくなかったのが、昼休みの応援練習。応援団の上級生の見回り指導が怖かった。

まだ女子が少なかった時代。卒業生9クラス427人中、女子73人であった。

だい学受験に親身になってくださった先生方。氏原先生は、学校の勉強とピアノ等の練習との両立を励ましてくださった。安藤先生は、電話口で日本史のミニテストをしてくれたつけ。

いまはなくなった旧講堂や部活の建物。坂を登り切った所に器楽部の建物があった。私が2年の終わりに廃部となったが、そこでの会話や合奏練習が毎日の楽しみであった。

震災復興ソング「花は咲く」の中に「叶えたい夢もあった」という歌詞がある。「音楽教員になる」という夢は、最終的には高校1年の時に決めた。志が果たせ、小学校で音楽主任等を務めた。今は校長職に遣り甲斐を感じ、幸せな半生であったと振り返っている。

「花は花は花は咲く 私は何を残しただろう・・・」これからは、このことを考え行動していきたい。人生、まだまだすることがある。



栗崎 弘義

△西山台と還暦▽

早いもので西高を卒業して40余年が過ぎた。あの頃ともに学び遊んだ友は還暦を迎える。西山台の友は40余年会っていない友もいるし、今なお交流を続けている友もいる。またこれから久しぶりに交流を深めようという友もいる。友とはお互いに「志」を成し遂げる有志ではなからうか。自分の人生を振り返れば様々な友に様々な場面で「志」を成し遂げるために助けてもらった。お互い西山台卒業後新たな友とめぐり合いその交流も浜松近隣・日本各地・そしてグローバルなものも広がってきた。我々が西山台で学んだあのころとは世界との距離が格段と縮まり世界みな兄弟といった感もある。ところが変なもので人生、還暦というある節目の時期になるとまた故郷の仲間と地域のために何か活動をと励んでいる今日この頃である。やはりそうなる西山台の友を始めとした友にお世話になることが多い。

ところで「還暦」という言葉は知っていても本来の意味がわからなかった。還暦の語源・由来を調べてみた。還暦の「還」は「かえる」「もどる」という意味で、「暦」は干支を意味する。干支は本来、甲・乙・丙他の十干と、子・丑・寅他の十二支を組み合わせたものをいい、「甲子」や「癸亥」の60種類があるので、61年目にもとの干支に還ることになり生まれ年の干支に戻ることから「還暦」というようになったそうである。

還暦を迎えての新たな「志」、人生まだまだこれからである。よき友とともに自分のため、家族のため、地域社会のため、少しでも貢献ができればと思う今日この頃である。



川合 博美

私は、浜松北高の通りを隔てた向かいに当時は住んでいました。西高受験はいろいろな意味で大変シヨックでした。友達に教えてもらった道順を歩いて行くと、受験生がぞろぞろ。初めて登ったあの坂道、登りきるとロータリーがあり、北高しか見たことがない私には、「眺めが良くて、素敵な学校」というのが第一印象でした。たぶん、その頃の私は、体は大きかったけれども、同級生の中で一番幼稚だったのだと思います。

運動がため、高校では文化系のクラブにと思い、写真部に入りました。そこで、ロバート・キャバ、ユージン・スミス、土門拳、等々、写真をかじっている人なら、誰でも知っている人や作品をはじめ知りました。文化系クラブの一つの特徴でしょうか、写真の技術的な話から、いつしか人間の生き様、社会、国家のあり方について、よく先輩から聞かされ、1年の終わり頃には立派に理屈をこねる少年に脱皮していました。

当時は自動二輪の免許を取りたい人の為に、学校が二輪の学校を斡旋してくれましたので、私も何人かと一緒にバイクの免許を取りに行きました。お陰様で、成績は伸びませんでしたでしたが、いろいろな所にカメラ機材を担いで、一人で出かけられるようになり、初めて自分一人で何かをしてみたいと思う青年になれたように思います。その後、どんなに変身したかは、大学時代の話をしなければなりませんので、またの機会に。還暦を迎えて、少年の気持ちで新たな挑戦を試みます。



河合 秀治

その頃は歩いて登った。自転車を押して登った。「オッスー」「おはよー」ずい分適当な挨拶をしていたような気がするが。

40余年経って、自分で運転する自動車で登った。坂は変わっていない。たぶん。ぎつと。校舎は変わった。新幹線の車窓から見えた大きな建物。

坂を登りきって見ればやっぱり大きいなあ。南の方にはキラキラ反射して光る遠州灘、高架の新幹線、当たり前だけれど「おんなじだー」その頃に見たものと。

その後同じ坂を登ったのは何人？その前から同じ坂を登っていたのは何人？

坂はきつと変わらないでそこにあり、次々と通り過ぎ、通り過ぎていった人の列。

これから同じ坂を登るのは何人？

歩いて登る。自転車を押して登る。先輩達が踏み締めた坂を同じように登る。

「足元にはご注意を」

自家用車の方は歩行者優先をお願いします。



伊藤 雅文

日本人の平均寿命は女性が86歳、男性が80歳。平均寿命まであと20年もあると思うと、思わずしゃがんで「えっ、まだそんなにあるの」と言いたくなってしまう。そろそろ疲れを感じつつある自分に気づく。こんな「コマーシャルがありました。父が娘に「将来の夢は何？」と聞くと、娘はお父さんの仕事である「建築家になること」と答えた後、父にも聞く。「お父さんの将来の夢は何？」。お父さんは言葉に詰まってしまふ。「お父さんはもう・・・」

この「コマーシャルを見た時、非常にお父さんの戸惑いに共感を覚えた。確かにもう60歳。夢を語るには、気力も体力も自信がない。目の前の仕事をこなすのに精一杯の自分がある。このまま後数年頑張れば仕事は引退して、後は平穏な日々が来るだろうと考えている。夢？とんでもない。夢などとは、考えたこともなかった。

でも、20年もあるんだよね。高校を卒業して42年。ほぼその半分も時間が、これからあるんだよ。子供に夢を持って生きて欲しいと思う親心。でも自分自身は、「もう60歳なのだから、夢を持たなくてもいいの??」

これって高校の時と何も変わっていない。相変わらずの自問自答。相変わらずのあがき。

Next

2015.1.2

新春の集い

来年は高47回卒の皆さんが幹事です。
ご支援・ご協力よろしくお願いたします。

高46回卒 STAFF

【代表】	藤田薫
【副代表】	大西扶有美・内山浩・竹山雅芳 高須紳輔・落合優・杉浦康仁
【事務局】	落合優・大西扶有美・平野輝充 夏目知栄
【オブザーバー】	内山浩
【企画部】	内山浩・山本英明
【広告部】	松本力洋・鈴木啓介・江塚元康 夏目聖・松山幸稔・夏目修平 古橋啓稔・坂本明・秋田茂行 串大介・門奈佳敬・松下恭子 高橋理仁・國井正貴
【チケット部】	竹山雅芳
【記念誌部】	杉浦康仁・内山浩・内山夕輝 小島明子・大隅佐織
【会計部】	高須紳輔・夏目高志
【クラス幹事】	佐原大華・落合慎一・平智子 小島明子・立石麻由美・關浩太郎 國井正貴・竹山雅芳・夏目知栄 大隅佐織・犬塚弘恵・内山夕輝・宮澤美恵

【協力】	栗田祥弘・寺田純也・鈴木洋宣・齋藤聖人・大杉晃弘・西村裕道 本尾延子・須藤直樹・今田義治・若松伸哉・小池孝則・橋本剛 新村仁・間間陽子・小松彩子・鈴木勇也・坂田美保・田崎香織 安藤千浜・富田貴弘・酒井仁・伊熊正博・古橋健一・中村律子 田村隆志・茂津目尚美・松下厚徳・野間咲子・森下靖・谷口友洋 松本圭司・鈴木久裕・松本元博・坂上芳正・仲田征宏・柴本真吾 山口徹朗・西野厚・本多孝行・高山博匡・柳本隆春・田中正巨 松山誠・足立守篤・倉田健幸・内山直人・加藤隆浩・池谷昌子 小松望・飛騨孝朗・山田哲史
------	--

(2013年11月28日現在 順不同 ※旧姓表記)

【Texture Design】	本尾延子(高46回卒)
【Design】	(株)テクイジデザイン(担当:高44回卒 星野晃由)
【印刷】	(株)アプライズ(担当:高44回卒 鈴木建之)
【発行】	浜松西高等学校第46回卒同窓会幹事会